

研修報告書 No.20

所 属：横浜市立大学附属病院

研修先：嶺北中央病院

今回、2023年1月30日から2月26日まで嶺北中央病院、大川村診療所、汗見川診療所で研修や見学をさせていただきました。病棟・外来・訪問診療などを中心に研修を行いました。

嶺北中央病院は、四国のおおむね中央部に位置しており、嶺北地域、本山町の中心部にあります。吉野川の沿岸にあり、山々が織りなす美しい風景が印象的な場所でした。私は普段は都市部大学病院で研修を受けており、このようなへき地の病院で研修をする機会はありませんでした。やはり大都市である横浜と比較すると医療資源が乏しい面は否定できず、嶺北地域から高知市内の大病院までは車で1時間ほどかかります。そのような中で最善の医療を提供しようと努めているスタッフの方々に感銘を受けました。また、嶺北地域は高齢化率が約50%と非常に高くなっており、今後の日本の医療・介護の将来を占う上で参考になると思いました。外来・病棟ともに患者さんの年齢層は高く、90代や100歳越えの方も珍しくありません。今後の医療に携わっていく身としては、これまでの考え方ではうまくやっっていけないのかもしれないという予感がしました。

外来の研修では、内科をはじめとした各科の外来診療に携わりました。内科では許可を得た患者さんの医療面接・診察・処方を担当しました。普段の外来研修ではほとんど見学のみだったため、とても為になる研修をすることができました。その他の科では見学を中心に研修を行いました。診療所での外来見学にも参加させていただきました。へき地ゆえに周囲に薬局がなく、院外処方できないためあらかじめ処方薬を持参していくことに驚きました。詳細な検査が難しいなかで、診療を行うことの難しさを感じました。救急車対応も行いました。上級医の先生が、総合診療科らしく、鑑別疾患を挙げた上で丁寧に一つ一つを除外していく様子が印象的でした。訪問診療にも同行させていただきました。訪問診療では、汗見川診療所での認知症を患ったご夫婦の症例が印象的でした。山深い中に一軒家が佇んでおり、このような場所でも人の生活があり、最期まで家で過ごすことも不可能ではないのかもしれないという考えを持ってました。訪問診療では、医療的なプロブレムに限定せず、より広い視野を持って診療にあたる必要があることを学びました。病棟業務では内科の患者さんを担当しました。私が勤務している大学病院と比較して、最重症の患者さんは少なく、時間的な余裕を持って患者さんと接することができました。また、内視鏡やエコーなどの手技についても学ぶことができました。

短い期間でしたが、様々な業務に携わることができ、充実した日々を過ごすことができました。上級医の先生方も、スタッフの皆さまも右も左もわからない私に対して丁寧に指導していただきました。深く感謝申し上げます。

今後は神奈川県内で働く予定ですが、今回の研修を糧にして、地域特性や患者の背景を考慮した医療を実践できるよう精進していきたいと思っております。

嶺北中央病院の先生方、スタッフの皆さま、短い研修期間でしたが大変お世話になりました。ありがとうございました。